



私は平成23年度研究者交流促進プログラムに参加しました。プログラムの参加機関の7か月（平成23年9月～平成24年3月）は、国立情報学研究所の岡田研究室にお世話になりました。22年9月に23年9月からの国内留学生の申請が認められ、11月ごろに岡田先生から研究者交流促進プログラムのご紹介をいただき申請いたしました。研究所ではたくさんの先生や事務の方々にご配慮いただき、有意義な時間を過ごすことができました。

私の研究テーマは高等教育機関における情報セキュリティ対策で、セキュリティポリシーの策定とその運用に関心を持っています。大学では学内の情報セキュリティ関連規則の策定を行っています。セキュリティ対策のPDCAサイクルを適切に回していくことで、大学のセキュリティレベルを向上させていき、単に厳しいだけでなく状況に応じた柔軟な運用ができるように対策を講じていくことが重要ですが、学内の教員や職員、学生のセキュリティに対する知識や認識は、非常に意識の高い人からあまり意識を持っていない人まで幅広く、組織全体としてレベルを上げていくためのレ

ベルの設定は容易ではありません。また、教育や研究、業務をより円滑に進めるために常に新しいサービスが開発され、導入が進められているのですが、便利になる一方で使い方を誤るとシステムダウンや情報漏えいなど大変な事態を引き起こしかねないために、利便性とセキュリティ、教職員のリテラシーや意識等バランスをとろうとするのですが、クラウドサービスやモバイル等新しいサービスへの対応が次々と発生し、実際の規則作成の困難さを感じておりました。

これまでも、国立情報学研究所に設置されている情報セキュリティポリシー推進部会として、高等教育機関の情報セキュリティ対策のためのサンプル規程集の改訂作業や講演、教材作成などを行ってきましたが、プログラム参加中はクラウドやモバイルなどの新サービスへの対応と大学のセキュリティ対策の現状調査を行いました。また、SINET4の説明会や各種イベントでサンプル規程集のクラウド対応について説明させていただく機会を与えていただいたり、関東近郊で開催される研究会やシンポジウムに参加でき、知見を広げることもできました。これまで作成してきたサンプル規程集のクラウドサービス導入に伴う規則の修正の必要性や導入にあたっての留意事項など、プラスの面とマイナスの面から検討することの重要性を明らかにでき、導入検討時の参考になったと思っています。

セキュリティ対策に終わりはなく、常に新しいソリューションや使い方が登場し、それらと制度との整合性、利用する教職員や学生の情報リテラシー等様々な要因を考慮してセキュリティレベルを向上し続けなければなりません。プログラムが終了した現在でも講演依頼をいただくこともあり最前線の動向をお聞きする機会を継続的に設けることができます。そのため研究対象の展開や継続ができ、プログラム参加中にいろいろなことに携わることができてよかったと思っています。

神戸での用務や打ち合わせも時々あったため、神戸の住まいをそのままに時々行き来する生活でしたが、研究者交流促進プログラムからのサポートもあり、国立情報学研究所のある神保町への通勤や、都内をはじめ各地への移動に便利な田町にマンスリーマンションを借り、趣味の写真撮影に出かけたり所内からスカイツリーや富士山を撮影したりと、研究だけでなく充実した生活を送ることができました。

大学での講義、学生の指導等から離れての7か月間はあっという間でしたが、じっくりと自分の研究を再構築するには非常によいチャンスであり、参加してみてそれを改めて実感して、今後の研究に活かしたいと思っています。このような比較的長期のプログラムへ参加することは、学内での留学制度や周囲のサポートがなければ簡単ではないでしょうが、参加を検討している方がいらっしゃいましたら、是非参加してみてください。